

アカシア探検隊

MI・2005

『東京オペラシティ侵入の巻』

甲.. おい、東京オペラシティって知ってるか？

乙.. 聞いた事はありませんが。(つて、このワシが詳しく知ってる訳が無いじゃろ)

甲.. こんだあ、そこへ行つてみようか思っらんじや。

乙.. へー、そうですか。行つてらっしゃい。

甲.. バカたれ。お前も行くんじや。

乙.. だつて、音楽とか芸術とかつて、ワシが一番苦手な分野なの、よー知つてるでしょうが。

甲.. インタビュはワシがする。お前はメモとつて、まとめて記事にすりやエエんじや。

乙.. 終つたら自腹で歌舞伎町で一杯奢つちやるけえ。経費の事は気にするな。

甲.. ほー。自信ありげな。音楽・芸術に詳しいとは知らんかった。ほんじやあ聞きますが、「ソナタ」ってなんか教えて下さいよ？

甲.. お前はホンマになんも知らんのじやのう。「ソナタ」ってちゆうのは、韓国ドラマの「冬のソナタ」の主題歌じゃ。

乙.. (聞くんじやなかった..) *****

と、いうことで、いよいよ母校創立百周年を迎える今年のアカシア会報インタビュー第一弾は、近畿アカシア会会長で、43回卒の米澤啓明(よねざわひろあき)先輩の登場です。米澤先輩は、昭和33年東京大学法学部を卒業後、日本生命に入社。入社当初から日本生命混声合唱団に所属し、指揮者として全国大会で最優秀賞を獲得された事もあります。

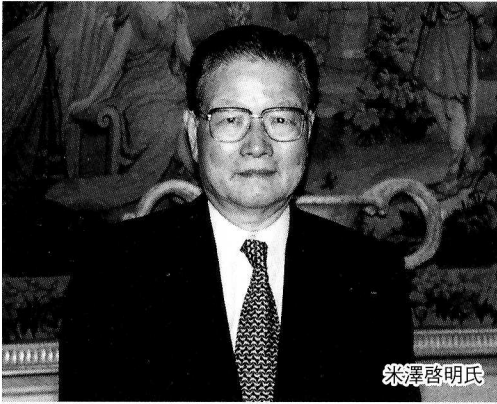
日本生命で常務・専務を歴任された後、平成10年4月には東京オペラシティ文化財団理事長に就任されました。併せて(財)新国立劇場運営財団理事、(財)二期会オペラ振興会理事にも就任されました。現在は(財)AVCC(高度映像情報センター)の特別顧問をお勤めです。

まさに文化・芸術分野の大御所というべき米澤先輩を東京オペラシティリサイタルホールに尋ね、ステージ中央にてスポットライトを浴びながらインタビューを行う予定でしたが、経費は出来るだけ百周年記念行事に振向けられる上層部の方針に従い、大阪の阪急インターナショナルホテルにてお話を伺いました。

甲.. 同期の石井泰行先輩(アカシア会会長)から伺ったのですが、ご

出身は広島ではないそうですね。米.. そうなんです。私の出身地は横浜なんです。その僕がなんで附属に入学する事になったのか。そこには不思議など言うか、偶然の産物と言うか、他のアカシア会員とは違う母校への思い入れを生み出すような物語があるんです。

乙.. ほー是非お聞かせください。(ちよつとは声出しとかなと)



米澤啓明氏

年です。ご存知の様に戦争末期には各都市が空襲にありました。勿論横浜も例外ではありません。当初は箱根に疎開していましたが、昭和20年の6月に横浜大空襲があり、我家も被災してしまいました。そこで祖父の実家のある双三郡川地村に一家で疎開したんです。それが小学5年生の時でした。

甲.. 双三郡川地村といえば、芸備線の沿線ですね。

米.. 三次駅の二つほど広島よりの志和地駅が最寄の駅です。その駅も現在は無人化されていますね。のどかな山間の農村でしたが、そこに疎開した事が私と広大附属、そして友人たちとの縁の始まりだったわけです。

甲.. 附属を目指して頑張られた訳ですね？

米.. いやいや、全然。それまで横浜にいた人間だから広大附属なんて知らないんですよ。それに戦争も終つて横浜に帰ろうかなんて家族で話してはいたくらいですから、それが何故附属に入学することになったのか。実はほんとうにたまたま当時の担任の先生が「米澤君、広島に広島大学の附属学校があるんだが受験してみないかね。」と言ってくれた事がきっかけなんです。随分難しかった記憶がありますが、合格できました。もし先生のその一言が無ければ、間違いなく三次市内の中学に入学し、三次高校に進学していたでしょうね。

甲.. 附属時代の思い出をお聞かせください。

米.. なんと今でも今でも交流が続く友と過ごした日々が思い出されます。さつきも話したように片道2時間以上かけてノロノロ進む芸備線の蒸気機関車に乗って通学していた訳ですが、これもさほど苦痛には感じませんでしたね。と言うのも原爆で広島は全滅していたので、芸備線沿線に多くの同級生が避難していたんです。元通商産業事務次官をやっていた児玉幸治君(東京アカシア会会長)や元大蔵省印刷局長の橋本貞夫君、それから山縣洋三君、花本剛君、満井喬君、などなど優秀なメンバーが駅ごとに乗ってきて、皆でワイワイやっていました。

乙.. 横濱大空襲で焼け出されて広島に疎開し、本当なら原爆で父を亡くすところをたまたま三次への用事があつたおかげで救われ、先生の一言で附属に入学できた。さつき言つたように、他のアカシアメンバーとは違う母校への思い入れがあるというのはそういう事なんです。

甲.. 附属時代の思い出をお聞かせください。

米.. なんと今でも今でも交流が続く友と過ごした日々が思い出されます。さつきも話したように片道2時間以上かけてノロノロ進む芸備線の蒸気機関車に乗って通学していた訳ですが、これもさほど苦痛には感じませんでしたね。と言うのも原爆で広島は全滅していたので、芸備線沿線に多くの同級生が避難していたんです。元通商産業事務次官をやっていた児玉幸治君(東京アカシア会会長)や元大蔵省印刷局長の橋本貞夫君、それから山縣洋三君、花本剛君、満井喬君、などなど優秀なメンバーが駅ごとに乗ってきて、皆でワイワイやっていました。

乙.. 横濱大空襲で焼け出されて広島に疎開し、本当なら原爆で父を亡くすところをたまたま三次への用事があつたおかげで救われ、先生の一言で附属に入学できた。さつき言つたように、他のアカシアメンバーとは違う母校への思い入れがあるというのはそういう事なんです。

甲.. 附属時代の思い出をお聞かせください。

米.. なんと今でも今でも交流が続く友と過ごした日々が思い出されます。さつきも話したように片道2時間以上かけてノロノロ進む芸備線の蒸気機関車に乗って通学していた訳ですが、これもさほど苦痛には感じませんでしたね。と言うのも原爆で広島は全滅していたので、芸備線沿線に多くの同級生が避難していたんです。元通商産業事務次官をやっていた児玉幸治君(東京アカシア会会長)や元大蔵省印刷局長の橋本貞夫君、それから山縣洋三君、花本剛君、満井喬君、などなど優秀なメンバーが駅ごとに乗ってきて、皆でワイワイやっていました。

乙.. 横濱大空襲で焼け出されて広島に疎開し、本当なら原爆で父を亡くすところをたまたま三次への用事があつたおかげで救われ、先生の一言で附属に入学できた。さつき言つたように、他のアカシアメンバーとは違う母校への思い入れがあるというのはそういう事なんです。

甲.. 附属時代の思い出をお聞かせください。

米.. なんと今でも今でも交流が続く友と過ごした日々が思い出されます。さつきも話したように片道2時間以上かけてノロノロ進む芸備線の蒸気機関車に乗って通学していた訳ですが、これもさほど苦痛には感じませんでしたね。と言うのも原爆で広島は全滅していたので、芸備線沿線に多くの同級生が避難していたんです。元通商産業事務次官をやっていた児玉幸治君(東京アカシア会会長)や元大蔵省印刷局長の橋本貞夫君、それから山縣洋三君、花本剛君、満井喬君、などなど優秀なメンバーが駅ごとに乗ってきて、皆でワイワイやっていました。

乙.. 横濱大空襲で焼け出されて広島に疎開し、本当なら原爆で父を亡くすところをたまたま三次への用事があつたおかげで救われ、先生の一言で附属に入学できた。さつき言つたように、他のアカシアメンバーとは違う母校への思い入れがあるというのはそういう事なんです。

甲.. 附属時代の思い出をお聞かせください。

